
こんていにゆー

かき氷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こんていにゆー

【Nコード】

N1973I

【作者名】

かき氷

【あらすじ】

朝、目を覚ますと、あいつは冷たくなっていた。ペットの死を通して、少年は生と死について考え出す。

朝、少年が目を覚ますと、あいつは冷たくなっていた。

最初は、何が起きたのかわからなくて、ただ呆然と眺めていた。次に、恐る恐る、あいつをやさしく撫でてみた。そっと触れる手、肌にあいつの感触を感じた。でも、

固かった。

冷たかった。

やさしく、あいつを抱きあげてやった。それでも、あいつはまぶたを閉ざしたまま、動こうとはしなかった。

少年はやつと理解した。あいつの顔を愛おしむようにやさしく撫でてやる。

死んでしまったんだ。

少年は幼いながらにそれを理解した。

そして、泣き出した。

午後、家の裏手にあいつのお墓を作ってやった。涙はもう止まっていた。けれども、頭の中のもやもやとした気持ちは治まらなかつた。

あいつが息を引き取った事に気づいた直後は、ひたすらに悲しかった。でも今は、ひたすらにむなしかった。この前まで元気に走り回っていたのに、あいつは今、土の中で眠っている。

少年は小さな頭で考えた。生きるという事について、死ぬという事について。

命はいつか終わる。

そこに例外はない。今は元気だとしても、父や母もいつかは、死んでいなくなってしまう。そして自分も、いつかは死んでしまう。

怖かった、置いていかれるのが。怖かった、いなくなってしまう

のが。怖かった、死ぬという事が。

なぜ生き物は死んでしまうのか、少年は母に尋ねた。

ふるえる手、怯えきった表情。死という気持ちの悪いものに初めて触れた少年。

母はやさしく微笑みこつ答えた。

「生きているものはいつかは死んでしまう。これは避ける事ができない運命なの。でもね、だからいのちつていうのは生きている間に後悔しないようにせいっぱい生きて、愛し合つて、色々な思い出を作つて、今日を大切に生きていくの」

静かに、母の言葉に耳を傾けた。けれど、その言葉の意味は少年にはまだ難しすぎてよくわからなかった。

母が少年をやさしく抱きしめた。髪が少年の顔にかかる。母の髪はあつたかい良い匂いがした。

5 years later

「シヨウウ！」

遠くから、俺を呼ぶ声が聞こえる。声には聞き覚えがあつた。同じ中学校に通つている幼なじみのソラだ。

俺は、あの頃よりも 少しだけ大人に近づいた。

「でさーそのこちよムカつくんだ！！ 私がちよつと漢字を読み違えただけなのに馬鹿馬鹿言つてきてさあ」

「へえつそれで何をどう間違えたんだ？」

「ガラス硝子を餃子ギョウザつて読んだ」

「なるほどそれは馬鹿だ」

顔をにやにやさせながら言つてやる。ソラがふくれっ面でぷいっとなつぽを向いた。

「あゝはいはい、どうせ私は漢字も読めない馬鹿な女の子ですよ」

だ！」

そう言つと、彼女は一人拗ね出した。

母が言った言葉の意味、あの時は全くわからなかった。

けれど、最近になって少しだけわかつてきた気がする。

命は儂い。だからこそ、その短い一生を後悔しないよう、懸命に生き抜いてゆく。

笑い抜く、愛し抜く、頑張り抜く、守り抜く。たぶんあいつがいてくれたから、気づく事ができたんだと思う。

世界は儂く、そしてこんなにも輝いているという事に。

「何よ」

気付くと、いつの間にかソラの顔をじっと眺めていた。

「何も」

「何も、無いなんて事、ないでしょ」

「別に、ソラの顔に見とれてただけだよ」

「……変なシヨウ」

それからしばらく、桜並木を二人で歩いたあと、俺たちはそれぞれの家の帰路へと別れた。

「ばいばい、シヨウ。また明日！」

「おう、また明日な！ ソラ」

互いの分かれ道に差し掛かる頃には、彼女の機嫌はすっかり良くなっていた。いつもながら、快活でころころと変わるそのさまは、いつ見ても飽きる事がない。思い返すとソラからも、多くの事を学んだ気がする。

家に着いて玄関の扉を開ける。

「ただいまー」

中に足を踏み入れる。すると

『みや〜!〜!』

あいつの、忘れ形見達の声が、俺を出迎えてくれた……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1973i/>

こんていにゅー

2011年10月9日23時52分発行